

展示に関わる遺跡

1. 青井古墳群

2. 心光寺古墳群

3. 高野遺跡

4. 大門古墳

5. 甲山古墳群

6. 引田遺跡

7. 若宮古墳群

8. 上の山古墳

9. 駅遺跡

10. 丸小山墳墓群

11. 仁馬山古墳

12. 観音堂古墳

13. 秋根古墳群

14. 塚本古墳

15. 秋根遺跡

16. 勝谷丸山古墳群

17. 地藏堂遺跡 ※弥生時代

18. 長門国分寺跡 ※奈良時代

19. 長門鑄銭所跡 ※奈良時代

20. 竜王南遺跡 ※室町時代

◆ 講演会

記念講演会①

「上の山古墳出土品の最新調査と被葬者像」

| 日 時 | 10月25日(土) 13:30-15:00

| 講 師 | 河野 正訓 氏 (東京国立博物館)

記念講演会②

「下関市上の山古墳の鑄銅鈴付馬具と防府市桑山塔ノ尾古墳の金銅装馬具からみた雄略・継体朝の防長地域」

| 日 時 | 11月8日(土) 13:30-15:00

| 講 師 | 桃崎 祐輔 氏 (福岡大学)

記念講演会③

「古墳時代後期の山口県における地域勢力と上の山古墳 - 穴門国造をめぐる政治情勢 - 」

| 日 時 | 11月29日(土) 13:30-15:00

| 講 師 | 岡田 裕之 氏 (山口県埋蔵文化財センター)

記念講演会①～③共通

| 定 員 | 各先着 50 名 (要申込)

| 申 込 | 公式ホームページ申込フォーム、または電話にてお申し込みください。
※各開催日の 1 ヶ月前より受付開始

| 参加費 | 無料

| 会 場 | 下関市立考古博物館 講堂

◆ 展示解説会

特別展の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。

| 日 時 | 会期中の毎週土曜日・日曜日
※10月25日(土)・11月8日(土)・11月29日(土)を除く
各日 14:00 ～ (60 分程度)

| 申 込 | 不要 *参加希望の方は当日、受付にお申し出ください。

| 参加費 | 無料

| 会 場 | 下関市立考古博物館 特別企画展示室

◆ さわって学ぶ古墳時代

目隠しをして古墳時代の“とあるもの”を調べます。
これまでにない〈体感する考古学〉を楽しもう！

| 日 時 | 10月18日(土)
11月15日(土)
12月6日(土)
各日 13:30 ～ (90 分程度)

| 定 員 | 各先着 10 名 (要申込)

| 対 象 | 小学 4 年生～大人

| 申 込 | 公式ホームページ申込フォーム、または電話にてお申し込みください。
※各開催日の 1 ヶ月前より受付開始

| 参加費 | 無料

| 会 場 | 下関市立考古博物館 講堂

※イベント内容や申込方法などの詳細は公式ホームページ、または当館 (☎083-254-3061) にてご確認ください。

下関市立考古博物館

〒751-0866 山口県下関市大字綾羅木字岡 454 番地
| TEL | 083-254-3061 | | FAX | 083-254-3062 | | URL | https://www.shimo-kouko.jp/
| 休館日 | 毎週月曜日 | | 観覧料 | 無料 | | 駐車場 | (第 1・第 2 あわせて) 87 台分あり (無料) | ※別に大型バススペース 5 台分あり
| 最寄駅 | JR 梶栗郷台駅より徒歩 5 分 | | 最寄バス停 | サンデン交通/バス停「郷台地入口」より徒歩 5 分

令和7年度 開館30周年記念特別展

UENOYAMA kofun and trends in ANATO

上の山古墳と穴門の趨勢

— 本州最西端の後期古墳と集落 —

令和7年(2025)
10月11日(土)
▶ 12月7日(日)

| 開館時間 | 9:30 ～ 17:00 (最終入館 16:30)

| 休 館 日 | 毎週月曜日

| 観 覧 料 | 無料

[主 催] 下関市立考古博物館

[特別協力] 国立文化財機構文化財活用センター、東京国立博物館

*令和7年度 国立文化財機構収蔵品貸与促進事業

下関市立考古博物館

〒751-0866 山口県下関市大字綾羅木字岡 454 番地 | TEL 083-254-3061 | FAX 083-254-3062

«上»六鈴鏡

«下»鈴付f字形鏡板書

[上の山古墳 出土]

東京国立博物館 所蔵

Image:TNM Image Archives

古墳時代、ヤマト王権による国家形成が進むなか、山口県域には周防地方に「大嶋」・「波久岐」・「周芳」・「都怒」の国造と「沙婆」の県主、長門地方に「穴門」・「阿武」の国造が配置されていたことが「国造本紀」(『先代旧事本紀』1巻)等の史料から知られています。これらは、6世紀に前方後円墳が出現する地域とよく対応しており、「国造本紀」の記録が6世紀から7世紀頃の政治状況を反映しているともいわれてます。

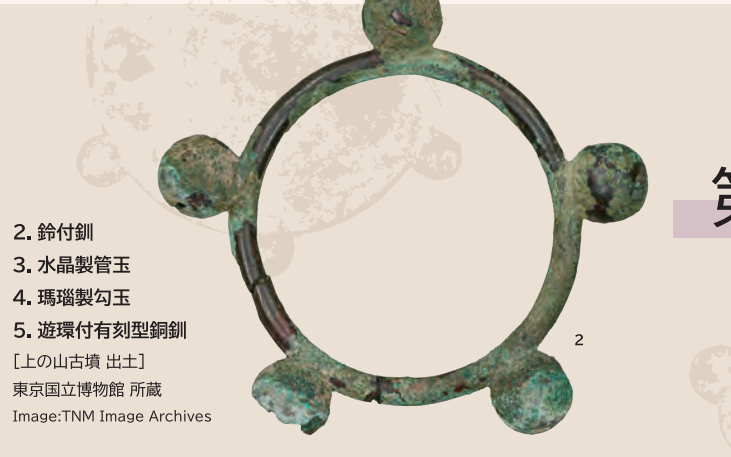
翻って下関市域の古墳時代を俯瞰すると、4世紀から6世紀にかけて若宮1号墳、仁馬山古墳、大門古墳、宮山古墳の4基の前方後円墳が築造され、7世紀には90基を超える県下有数の終末期群集墳である甲山古墳群が展開するなど、長門地方において下関市域は一貫して政治的主導権をもった地域として察知でき、穴門国造の領域として有力視されます。

「穴門」なる地名も、狹隘な早鞆瀬戸(関門海峡)に由来するとみられることや、史料にも再三登場する穴門における「豊浦」の地名も、外海に面し港津として響灘沿岸域が優れた環境を有することに由来するとみれば、当地が穴門国造の領域として想定することは無理のない歴史的評価でしょう。とりわけ、その中枢域は、古墳時代後期の前方後円墳が分布する市域南部とみてよいでしょう。

このことを踏まえて、本展ではその優れた副葬品から古くから注目され、本市を代表する6世紀前半頃の前方後円墳との説もある「上の山古墳」の出現に注目します。この時期のヤマト王権は、雄略朝から継体朝へと王権の転換がはかられた直後で、上の山古墳の出現はヤマト王権と地方有力首長との間に新たな政治的関係が取り結ばれた証左としてその後の国造制進展の嚆矢となったとみることもできます。

そこで、本展では、穴門中枢域における古墳時代後期の有力古墳や集落出土資料によって、穴門における在地勢力の趨勢を見極めることで、その後に穴門から転じて長門となり国府設置にまで至った地域的特性に迫ります。

プロローグ 穴門の醸成



2. 鈴付釦
3. 水晶製管玉
4. 瑪瑙製勾玉
5. 遊環付有刻型銅釦
[上の山古墳 出土]
東京国立博物館 所蔵
Image:TNM Image Archives

第1章 上の山古墳の出現



6. 水晶製切子玉
7. 耳環
8. ガラス製小玉
9. 瑪瑙製勾玉
[秋根2号墳 出土]
下関市教育委員会 所蔵



10. 円筒埴輪
[大門古墳 出土]
下関市教育委員会 所蔵



11. 鉄刀 [秋根2号墳 出土] 下関市教育委員会 所蔵

第2章 穴門中枢域の後期古墳



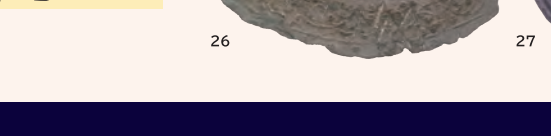
12. 鉄鎧
13. 鉄鉗
14. 新羅土器
[心光寺古墳群 出土]
下関市立考古博物館 所蔵



15. 須恵器甕
16. 須恵器坏蓋・坏身
17. 環状鏡板轡
18. 鉄鏃
19. 刀子
20. 鉄刀
[勝谷丸山古墳群 出土]
下関市教育委員会 所蔵



エピローグ 穴門から長門へ



第3章 穴門中枢域の集落

